
3つの言葉「王様の酒瓶」@koru.

koru.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

3つの言葉「王様の酒瓶」@koru.

【ZPDF】

N3133W

【作者名】

koru.

【あらすじ】

私は眠るのが怖い……。

それは、眠ってしまうと異世界に行ってしまうことになってしまつか。

私は眠るのが怖い。

だつて、眠つてしまつたら私はあの世界で……。

酒瓶になつてしまふんだもの！！！！

いやあああああ！！！

* * * * *

ほら… 今日も、私の中にお酒が満たされてる…。

ちやほん

6

水音が私の中で跳ねる。

今日のは中々にアルコール度の高いお酒だわ。

その割りに口当たりがまろやかで…かなり高級なお酒ね。

私を満たすお酒を味見して、ほんのり気持ちよくなる。
瓶なのに味がわかるのが可笑しいなんて思わないわよ？
そんなの可笑しいなんて思つてたら、私が瓶になつた事自体の説

明をどうつければいいっていうのよ。

「いつまで待てば良い？」

低い声がしたので意識を上に向ければ、嫌になるほどの存在感を持つ男が居る。

「なんたら國の王様で、酒瓶の所有者。
がつしりとした体躯に見合つ大酒呑み。
ウワバミのわりには平日はがぶ飲みはせずに、美味い酒をじつくり味わつて呑むのが好きらしい。」

「まだか？」

我慢できないみたいに、その指先が酒瓶の縁に触れ、広く開いて
いる瓶の口部分をゆっくりと撫でる。
わたし

駄目

性別の判らない（いや、瓶に性別なんてないんだから）べく
もつた音が、声のよろこびに瓶に響く。

楽しそうな王様の声。

そして、指は瓶の表を包み込むように撫でる。

変な声が出そつになるのを堪える。

「震えておるぞ？」酒瓶のぐせに酒に酔つたのか?」

愉快そうに言われて、かつと頬が熱くなる。

あくまでイメージ、実際には酒瓶なので変わらないんだけどね。

それにしても……

無駄なイケメンおやじめ!!

無駄な色風を駄々扇れさせぬなり

あーもう少しちゃ。
酒瓶形でなければ、お手合せをお願いするのには
こんななり

（いや、大口聞いてしまいました）メンカサイ
わたし

不味い酒もそれなりに、美味しい酒ならより美味くする魔法の酒瓶
とは私のことよー ふはははははっ！

• • • •
•
o
r
z

あーあ、早く朝にならないかしら、そうしたら「よつぱい！」のアパート我が家のせんべい布団に転がる現実に戻れるのに。
しょっぱい現実だとしても、身動きが取れるだけやっぱり現実の
ほうがいい。

そ、それにしても、わざわざすつと瓶をくすぐるよつて撫でるのをやめて欲しいです！

身を捩りたくても瓶なので出来ず。

それでも小刻みに体が震えて、瓶の中のお酒に小波がたつ。

「心地よいか？ ん？」

なんですかそのエロボイス！

「どれ、味見でも……」

わたし瓶を持ち上げ、ぺろりと瓶の口につけた霧を舐め取る。

「ひゃあああつ！！」

ピシャンと瓶の中のお酒が跳ねて、王様の口元に跳んだ。その霧を王様の赤い舌が舐め取る。

「 良い味だ。 」のまま、お前の最後の一滴まで飲み干そうか

やああっ！ コップを！ コップを使つてください！！
わたしの胸中の懇願など何処吹く風で、王様の少し酷薄そうな薄い唇が瓶に近づいてくる。

「 本氣ですか 」

悲鳴のような囁きのような音が酒瓶の中で反響するが、王様の行動を止めることはできなかつた。

ひあああああつ！ ちょっと待つてええええ！ 直飲みは駄目ええつ！

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

「つ、つ、今日も夢見が最悪だ……」

『本気ですかー！ー！』と叫びながらの起床でした。

ベッドに身を起したままで、目を開じて頃垂れる。
ああ、胸がまだバクバクいってる。
胸に手をやり深呼吸……、ん？

目を開けてパジャマを確認。

あれ？ 着ていたはずのハシャマカ…無い？
寝ぼけて脱いだのかしら。

顔を上げて、周囲を見まわす。

「やつと目覚めたか、魔法の酒瓶よ」

わたしの横には、上半身裸（下半身はシーツの中だ！ きっとパンツは履いてる！ うん！）の王様が、朝っぱらからいかがわしいエロ気を撒き散らしていた。（色気の上をいく何か）

驚いて硬直しているわたしの腕が引かれ、一瞬にしてベッドに押し倒される。

ええ、それは見事な押し倒しでした。

「田覚めるのを待っていたぞ。これでやっと、お前の美酒が味わえる」

にやり、と笑む王様の美顔が迫ってきて。

。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3133w/>

3つの言葉「王様の酒瓶」@koru.

2011年9月2日19時13分発行